

(様式第 10 号) (第 53 条関係)

施工状況等報告書

令和 2 年 4 月 1 6 日

長野県知事 阿 部 守 一 様

松本市長 臥 雲 義 尚 様

安曇野市長 宮 澤 宗 弘 様

池田町長 甕 聖 章 様

所在地 長野県安曇野市穂高北穂高 1589 番地 2

名 称 穂高広域施設組合

管理者 宮 澤 宗 弘

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項の規定により、下記のとおり送付します。

記

| | |
|-------------------|--|
| 対 象 事 業 の 名 称 | 穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業 |
| 報 告 対 象 期 間 | 令和 2 年(2020 年) 1 月 1 日から 令和 2 年(2020 年) 3 月 3 1 日まで |
| 環境の保全のための措置の状況 | 詳細は別紙添付資料のとおり |
| 対 象 事 業 の 実 施 状 況 | 詳細は別紙添付資料のとおり |

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

－ 目 次 －

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1 環境保全措置状況

1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

2-1 工程表

2-2 総合仮設計画図

2-3 現況写真(1月,2月,3月)

2-4 主な工事写真

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1_環境保全措置状況(1/2)

令和2年1月から3月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

| 対象 | 内容 | 作業位置 | 環境保全措置 | 環境保全措置 | | | 添付資料 |
|------------|---|-------------|------------------|--------|---------------------------------------|--|--------------------------|
| | | | | 種類 | 実施内容 | 実施状況 | |
| 1 大気質 | (1)工事関係車両の走行による影響 | 工事関係車両走行ルート | 搬入時間の分散 | 低減 | 現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整 | 工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 交通規制の遵守 | 低減 | 現場教育時に交通規制遵守への指導 | | |
| | | 対象事業実施区域 | 暖機運転(アイドリング)の低減 | 低減 | アイドリングストップの指導、実施状況の管理 | | |
| | | | 工事用出入り口の路面洗浄 | 低減 | 散水による路面洗浄の実施 | | |
| | (2)建設機械の稼働による影響 | 対象事業実施区域 | 工事用車両荷台のシート覆い | 低減 | 工事用車両荷台にシート覆いの設置 | 粉塵を飛散させるおそれがある工事車両の走行はなかった。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 工事用仮囲いの設置 | 低減 | 周囲に工事用仮囲いを設置 | 工事区域には仮囲いを設置した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 排出ガス対策型機械の使用 | 低減 | 排出ガス対策型機械の採用 | 排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| 2 騒音 | (1)工事関係車両の走行による影響 | 工事関係車両走行ルート | 搬入時間の分散 | 低減 | 現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整 | 工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 交通規制の遵守 | 低減 | 現場教育時に交通規制遵守への指導 | | |
| | (2)建設機械の稼働による影響 | 対象事業実施区域 | 工事用仮囲いの設置 | 低減 | 周囲に工事用仮囲いを設置 | 工事区域には仮囲いを設置した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 低騒音型・低振動型建設機械の使用 | 低減 | 低騒音型・低振動型建設機械の採用 | 低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| 3 振動 | (1)工事関係車両の走行による影響 | 工事関係車両走行ルート | 搬入時間の分散 | 低減 | 現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整 | 工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 交通規制の遵守 | 低減 | 現場教育時に交通規制遵守への指導 | | |
| | (2)建設機械の稼働による影響 | 対象事業実施区域 | 建設機械稼働時間の分散 | 低減 | 現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整 | 毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 建設機械稼働時間の抑制 | 低減 | 建設機械は、アイドリング停止を徹底する。 | 毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。 | |
| 4 水質 | (1)建設工事中の土地造成、掘削、舗装工事・コンクリート工事による雨水への影響 | 対象事業実施区域 | 沈砂池の設置 | 低減 | 沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流 | 期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 雨水排水の濁りの監視 | 低減 | 降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水を沈降させ、上澄水を放流 | | |
| | | | 凝集剤による土壌の沈殿促進 | 低減 | 放流水質が河川水質を悪化させる恐れがある場合は凝集剤による土壌の沈殿を行う | | |
| | | | アルカリ排水中和及び流出防止 | 低減 | アルカリ排水の流出を防止する | | |
| 5 水象 | (1)工事による影響 | 対象事業実施区域 | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 排水にたよらない掘削方法の実施 | | |
| | | | 適切な掘削時期の検討 | 低減 | 渇水期に掘削を開始 | | |
| 6 土壌汚染 | (1)工事による影響 | 対象事業実施区域 | 建設発生土の全量再利用 | 回避 | 発生土を場内の埋め戻し等に再利用 | 発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| 7 地盤沈下 | (1)工事による影響 | 対象事業実施区域 | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施 | | |
| 8 地形・地質 | (1)工事による影響 | 対象事業実施区域 | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施 | | |
| | | | 矢板等の設置による崩落防止 | 低減 | 掘削面の崩壊を防止する | | |

【環境保全措置の種類】
 回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1-1_環境保全措置状況(2/2)

令和2年1月から3月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

| 対象 | 内容 | 作業位置 | 環境保全措置 | 環境保全措置 | | | 添付資料 |
|--|--------------------|-----------------|-------------------------|-----------------|------------------------------|---|-----------------------------------|
| | | | | 種類 | 実施内容 | 実施状況 | |
| 9 植 物 | (1) 工事関係車両の走行による影響 | 対象事業実施区域 | 工事前仮囲いの設置 | 低減 | 周囲に工事前仮囲いを設置 | 工事区域には仮囲いを設置した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 工事区域への散水 | 低減 | 土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水 | 土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 沈砂池の設置 | 低減 | 沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流 | 期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。 | — |
| | | | アルカリ排水の中和及び流出防止 | 低減 | アルカリ排水の流出を防止する | | |
| | | | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 排水にたよらない掘削方法の実施 | | |
| | | | 生育地の保全 | 回避 | できる限り生育地の改変を回避し、生育可能な状態を保全する | クマツヅラの生育地を自然緑地として残置し、生育地の改変を回避した施設配置とした。 | 2018年10月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 個体の移植 | 代償 | 生育地の保全が困難な場合、個体の移植を実施 | 平成30年度にアオガヤツリから採種した。2019年度中に播種の具体的な時期・場所を検討し、播種の計画を作成した。2020年に現地で試験的な播種を行い、竣工後に保全措置としての播種を行う。 | 2019年1月25日 施工状況等報告書参照 添付資料① |
| 10 動 物 | (1) 工事による影響 | 対象事業実施区域 | 騒音発生の低減 | 低減 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 振動発生の低減 | 低減 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 沈砂池の設置 | 低減 | 沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流 | 期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。 | — |
| | | | アルカリ排水の中和及び流出防止 | 低減 | アルカリ排水の流出を防止する | | |
| | | | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 排水にたよらない掘削方法の実施 | | |
| | | | 生息地の保全 | 回避 | できる限り生息地の改変を回避し、生息可能な状態を保全する | コウフオカモノアラガイの生息地を自然緑地として残置し、生息地の改変を回避した施設配置とした。 | 2018年10月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 固体の移植 | 代償 | 直接影響を受ける種について、生息適地の調査と移植の実施 | 平成30年11月にヒメカメシの移植を実施。コウフオカモノアラガイは継続調査。 | 2019年1月25日 施工状況等報告書参照 |
| 11 生 態 系 | (1) 工事による影響 | 対象事業実施区域 | 工事前仮囲いの設置 | 低減 | 周囲に工事前仮囲いを設置 | 工事区域には仮囲いを設置した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 工事区域への散水 | 低減 | 土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水 | 土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 騒音発生の低減 | 低減 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 振動発生の低減 | 低減 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。 | 低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 地区外流出抑制対策の実施 | 低減 | 河川側に側溝を設置する | 河川側に側溝を設置した。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 沈砂池の設置 | 低減 | 沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流 | 期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。 | — |
| | | | アルカリ排水の中和及び流出防止 | 低減 | アルカリ排水の流出を防止する | | |
| | | | 掘削面積、掘削深度の最小化 | 低減 | 掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施 | ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| 適切な掘削方法の検討 | 低減 | 排水にたよらない掘削方法の実施 | | | | | |
| 12 触 れ 合 い 活 動 の 場 | (1) 工事関係車両の走行による影響 | 対象事業実施区域 | 搬入出時間の分散 | 低減 | 現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整 | 工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 交通規則の遵守 | 低減 | 現場教育時に交通規制遵守への指導 | | |
| | (2) 建設機械の稼働による影響 | 対象事業実施区域 | 工事前仮囲いの設置 | 低減 | 周囲に工事前仮囲いを設置 | 工事区域には仮囲いを設置した。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| | | | 低騒音型・低振動型建設機械の使用 | 低減 | 低騒音型・低振動型建設機械の採用 | 低騒音型機械を採用し、騒音振動の抑制を図った。 | 2019年4月26日 施工状況等報告書参照 |
| 13 廃 棄 物 等 | (1) 工事による影響 | 対象事業実施区域 | 建設発生土の全量再利用 | 回避 | 発生土を場内の埋め戻し等に再利用 | 発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| | | | コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用 | 低減 | コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用 | 建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 |
| 現場での分別排出 | | | 低減 | 現場で可能な限り分別排出を行う | 建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。 | 2019年7月18日 施工状況等報告書参照 | |

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

＜アオガヤツリの保全計画について＞

1. 生息状況、生態等

保全計画に先立って、アオガヤツリの生育状況、生態等を整理した。

表①-1 アオガヤツリの生息状況、生態等

| 項目 | 状況等 |
|----------------|---|
| 現況調査時 (評価書) | 平成 28 年 9 月に、対象事業実施区域内で 3 か所計 18 株、区域外で 3 か所計 31 株の生育を確認。 |
| 建設工事中 | 平成 30 年 11 月に対象事業実施区域内の被改変部分で 3 株の生育を確認。 種子及び土壌（草体を含む）の採取・保管を実施。 |
| 供用後 | 生育場所に隣接する草地は改変等を行わず緑地として管理を行う予定である。 |
| 生態的特徴 | 草地や路傍、荒地のやや湿ったところに生育する一年草。 砂地で踏圧等のかく乱を受ける不安定な立地に生育している。 草丈が低く、かく乱を受けた後にも短時間で生育し開花できる。周囲に高茎草本が繁茂すると生育は難しくなると考えられる。 |
| 保全の方向性 | 対象事業実施区域外でも生育が確認されており、個体保全の重要性は高くない。 事業により失われる生育場所に対する代償措置として、丈の低い草地環境を確保することで生育可能な環境を維持する。 |

2. 保全計画

生息状況、生態等を踏まえ、作成した保全計画を表①-2 に示す。

表①-2 アオガヤツリの保全計画

| | 保全措置内容 | 実施計画 |
|-------|---------|---|
| 建設工事中 | 個体の移植等 | 令和 2 年度に、試行的に緑地への播種を行い、保全措置の効果の試験を行う。 周辺の植物の除去、表土のかく乱などによりやや湿った状況を創出した上で、採取した種子の一部を播種し、生育状況の記録を行う。実施時期は 5 月頃とする。 試験の結果を踏まえて、供用後の播種の仕方、管理等を検討する。 |
| 供用後 | 草地環境の維持 | 緑地は適度な草刈りを行い、草地環境を維持する。 草刈りは、高茎草本の繁茂を抑え、丈の低い草地環境を維持することを主眼として行う。 初夏と初秋の 2 回程度を基本とし、植物の繁茂状況を見つつ実施する。 |
| | 個体の移植等 | 試験播種の結果を踏まえて、令和 3 年度に保全措置としての播種を行う。 草刈り等の管理をしつつ、令和 3 年度の生育状況を観察する。 |

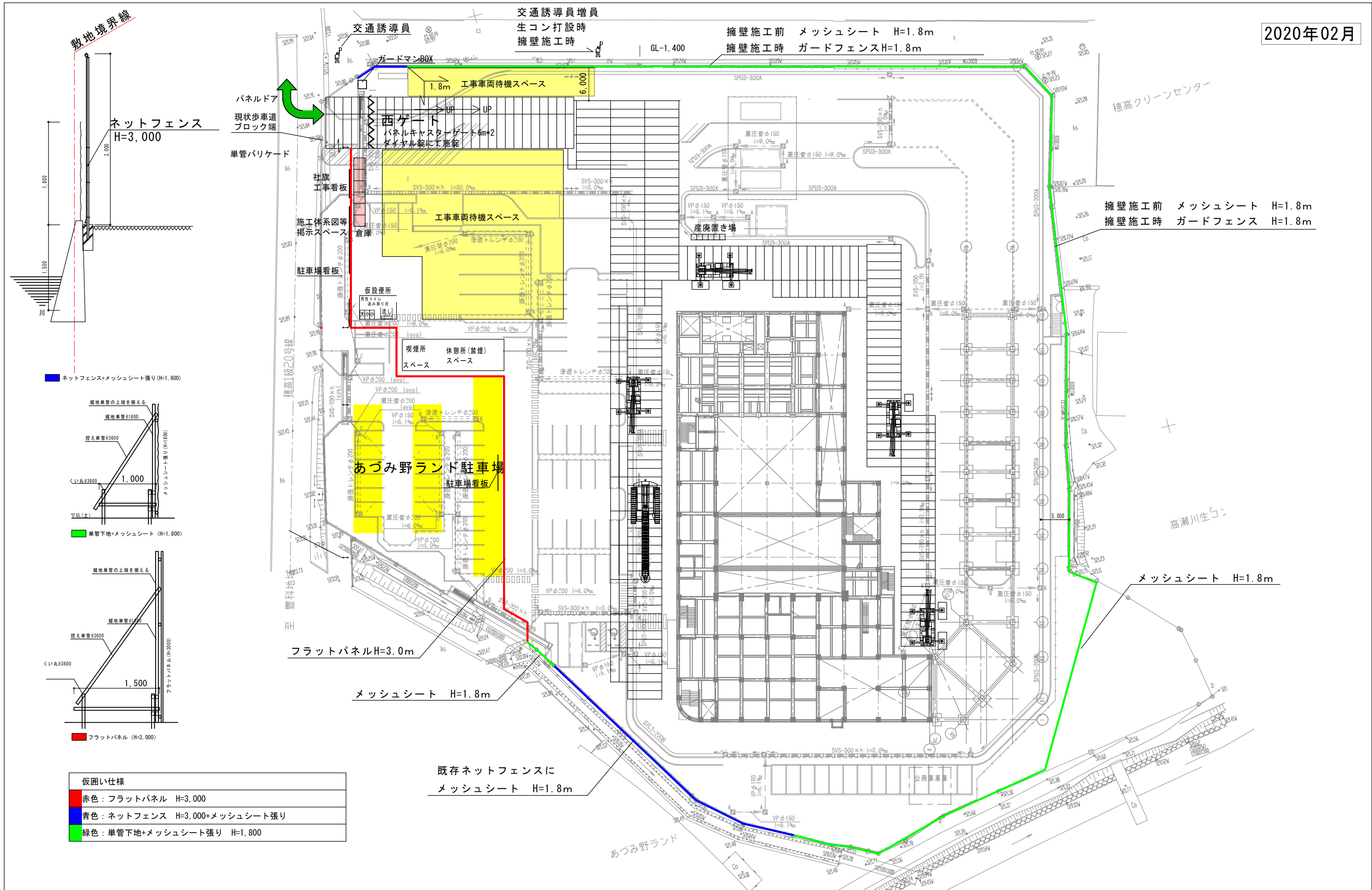
1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

| 対象 | 知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文) | 事業者の見解 (工事中に関連する部分について、原文) | 作業位置 | 環境保全措置 | 環境保全措置 | | |
|----|--|--|----------|----------------------|--------|---|--|
| | | | | | 種類 | 実施内容 | 実施状況 |
| 全般 | 施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。 | 安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。共用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。 | — | — | — | ホームページで工事の進捗状況を公表します。 | ホームページで工事の進捗状況を公表しています。 |
| 水象 | 地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。 | 区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないよう十分に配慮します。 | 対象事業実施区域 | 水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮 | 低減 | 敷地面積に対して緑地面積を20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。 | 実施設計で緑地面積を20%以上確保しており、計画に沿って施工しています。外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、計画に沿って施工しています。 |
| 水象 | 事業実施区域は地下水水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水水位が安定した濁水期に実施すること。 | 地下水への対策として、ブラットホームを3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水水位が安定した濁水期を開始するよう計画します。 | 対象事業実施区域 | 掘削深度を小さくする濁水期に掘削を開始 | 低減 | ブラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水が安定した濁水期に実施します。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施します。 | ブラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画としています。掘削は地下水が安定した濁水期に開始しました。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施しました。 |
| 動物 | コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタママイマイの生息地に移殖を行うことを検討すること。 | コウフオカモノアラガイについては、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタママイマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移殖適地を検討し、移殖を行います。 | 対象事業実施区域 | 生息地の改変回避または移殖 | 低減 | 緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。 | コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置する施設計画とし、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しています。 |
| 景観 | 事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。 | 幹線道路や周辺の道路、あづみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。 | 対象事業実施区域 | 形状・意匠・色彩に配慮 | 低減 | 曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。 | 左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工をしています。 |

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

| | | 2018年度 | | | | | | | | | | | | 2019年度 | | | | | | | | | | | | 2020年度 | | | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|-----------------------|-----------|--------|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----------|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|--------|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | 1 | 2 | 3 |
| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| ■全体スケジュール | | ★ 契約 | | | | | | | | | | | | 設計・建設 | | | | | | | | | | | | 引渡し★ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 建 築 工 事 | 準備工事 | | | | | | | | | | | | | ▽2/21起工式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地盤改良・造成工事 | | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築工事 | | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 外構工事 | | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■プラント工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■試運転 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



仮囲い仕様

| | |
|----|---------------------------|
| 赤色 | フラットパネル H=3,000 |
| 青色 | ネットフェンス H=3,000+メッシュシート張り |
| 緑色 | 単管下地+メッシュシート張り H=1,800 |

株式会社 武井組

◆ 株式会社 武井組 一級建築士事務所
 一級建築士事務所 長野県知事登録 松本2X332号
 一級建築士 酒井 義人 大臣登録 第242341号

| 日付 | 訂正及び変更内容 | 日付 | 追加内容 |
|----|----------|----|------|
| | | | |
| | | | |

| 発注者 | 監理者 | 施工者 | 工事名 | 図面番号 |
|-----|-----|-----|---------------------|-----------|
| | | | 穂高広域連合組合新ごみ処理施設建設工事 | 図面名 仮 5-1 |
| | | | | |
| | | | | |

2-3_現況写真



1月



2月



3月

2-4_主な工事写真



工場棟 建築工事



工場棟 建築工事



付属棟 建築工事

2-4_主な工事写真



プラント工事 タービン据付状況



プラント工事 排ガス鉄骨建て方状況



炉室 焼却灰振動コンベヤ据付状況